

いわみの

(益高だより)

令和5年3月号

(第166号)

令和5年3月24日

島根県立益田高等学校

この一年間を振り返って

校長 長岡 正和

令和4年度、入学式から始業式・終業式において生徒にお願いしたことを振り返ってみる。

【入学式、第1学期】

- 本校の教育目標は『主体的に物事に取り組み、様々な他者とのつながりを通して自らを高め、未来を切り拓くことのできる生徒を育てる』です。『伸びる 伸ばす』や『不抜・不濁』を合い言葉として、自立した人間を目指し、学業、部活動、探究活動等あらゆる面において、自己の可能性に線を引き、挑戦・チャレンジしてもらいたい。
- 『凡事徹底（当たり前前を当たり前に行う。いやそれだけでなく、その当たり前前を人が真似できないくらい徹底して行う。）』を意識しながら、特に『時を守り、場を清め、礼を正す』ことを心掛け「心の偏差値を高める」ことにより豊かな人間力を身につけていこう！
- 『日々改善（すぐに諦めたり無理と言わず、まずはここまでという達成しやすい小さな目標をたて、小さな変化・挑戦を日々大切にしていこう）』ことを心掛けよう。迷ったときに、あえて苦しいとわかっていることに挑戦することも「自己を高める」ために必要なことです。
- 『凡事徹底』と『日々改善』ができる人は、相手や周囲の人々を、尊重し思いやることのできる人です。それは間違いなく相手や周囲の人々からの「信用」「信頼」に繋がっていく。そして、誰もが互いに「信用」「信頼」される人物であれば、必ずや安心安全に過ごせる充実した高校生活を送ることができるはずです。
- 探究活動などを通して、深く考え思考する学びの過程の中で、地域の多くの方々にもお世話になり「自分の言葉で説明する」「自分の言葉で尋ねる」ことを大切に協働した学びを深めてもらいたい。

【第2学期】

- 『「願望」ではなく「意志」を持つよう！』
「明日は晴れるといいな」は「願望」。「テストでいい点を取りたいな」は「意志」。「願望」は、自分では左右できないことに向けられた望み・欲望であり、ほとんどの場合、過去や未来を夢想したり、空想したりすることになる。一方「意志」は、自分で左右できることに向けられた望み・欲望であり、知っていること、出来そうなことに関して欲望することである。努力と結びつき活動的かつ生産的で、今現実にあるものや自分が持っているものを味わい楽しみ深めていくことができる。つまり「意志」と努力によって、自分の未来は変えることができるんです！
- 『自分の弱さや課題の克服に向けての何等かの行動を継続していこう！』
まずは、自分の弱さや課題を理解・確認し、きちんと対峙した上で、その克服に向けての何等かの行動を継続して行ってもらいたい。1つでもいいです。現状の自分を見つめ直して、都合の良い言い訳をしまかしたり、勝手に責任転嫁して逃げることなく、それに向けての改善の努力をしてもらいたい。
- 人生には、困難なこと、難儀なこと、苦しいこと、辛いこと、怠けなくなること、あきらめなくなること、逃げなくなることなど、いろいろとある。程度に差こそあれ誰にでもある。決して自分だけではなく、みんなです。そんなときに、どう考えるか、どう処置するか、それによって、その人の幸不幸、飛躍するか後退するか、伸びるか伸びないかが決まるのです。不安な岐路に立ちつつも、その原因も責任も他に転嫁するのではなく、自己コントロールを心掛けていくことを大切にしてください。

○『簡単に、無理って言うな！』

体調面では3年間「無理をしないように」と言われ続けてきた。しかし、その「無理をしないように」が、残念ながらコロナ感染症関係以外の事にも影響していると感じている。好きな部活動や、ゲームやSNSなど楽しいことのためなら時間をかけても多少の無理はできるけど困難なこと、苦しいことには簡単に無理と言って諦めてしまう。自分でも本当は、踏ん張って頑張るべきだとわかっているのに・・・

- 思いを新たに決意を固く歩めば、困難なことがかえって飛躍の土台となる。要は考え方、決意なんです！「簡単に、無理って言って、ごまかさないでほしい！」「簡単に、無理って言って、乗り越える努力もせずに諦めないでください！」「今は、無理してでも、踏ん張るべき時かどうか判断できる益高生であってほしい！」 『簡単に、無理って言うな！』

【第3学期】

- ディズニーランドのキャストの最高のもてなしの例のように、ぜひ人のため、社会のために、自ら判断し行動する「健全な主体性」が発揮できるような人物を目指して、高校での様々な活動に意欲的に取り組んでももらいたい。

以上、1年間の私の思いの振り返りでした。できれば来年度にも繋げてくれると喜びます。来年度が更に充実した1年になることを心より期待しています。ありがとうございました！

「新聞」のススメ

教務部長 山田 忠幸

毎年、3学期は受験生の面接や小論文の個人指導をしますが、近年、次のような生徒が多いように感じます。①語彙力が乏しい。②適度な文章が書けない。③自分を表現することに苦手意識を持っている。④世の中の動きをよく知らない（興味が無い）などです。特に、作文は難しいようです。1つの文が極端に長くなり、書きたいことを見失ってしまうとか、主語が複数存在する、同じ意味の文を繰り返す等々、様々な症状がみられます。一方で、表現力とか社会性は、一朝一夕に身につくものではないので、厄介です。そこで、これらの問題を解決する手段として、新聞を読むことを推奨します。世の中の出来事がわかるだけでなく、語彙力や文の書き方が自然と身につきます。高校生の作文もよく載っているし、社説は批判的で面白い。私は、地元紙を（わざと子どもの前で）読んでいますが、今年も、益田高校生がたくさん登場していました。

図書館にも寮にも、毎朝新聞が届いています。スマホで手に入る自分に必要な情報以外の記事に触れる機会をつくってみませんか。本当にオススメですよ。

合格に至るストーリー

進路指導部長 寺岡 智弘

今年の3年生も本当によく頑張りました。昨年の卒業生はここ10年で最も国公立大学の合格率が高かったのですが、今年の卒業生は国公立大学の合格数で昨年度を上回りました。私立大学でも多くの方が第一志望の合格を勝ち取っています。このような受験生の体験を後輩の皆さんに伝える機会として進路指導部では毎年、「受験体験報告会」（3/14に実施済み）の開催と「先輩からの便り」（6月発行予定）の発行を行っています。先日の報告会のお話を聞いたり、送られてくる「先輩からの便り」の原稿を読んだりしてわかることは、進路実現を果たした人には必ず“人に語れる何か”があるということです。一人一人に合格に至るまでのストーリーがあるのです。例えば、

「部活動で疲れて夜の勉強は集中できないので、朝早起きして学習時間を確保した。」

「わからないことがあれば必ず先生に質問してすぐに解決した。」

「定期試験前の部活が休みになってからは誰にも負けないくらい勉強した。」

「担任の先生には厳しいと言われたが、どうしても第一志望の大学で勉強したいことがあったので諦めきれず、必死に勉強して逆転合格を勝ち取った。」

のように。逆に言うと、ただなんとなく高校生活を送っていたのでは合格は勝ち取れないということです。

2年生は1年後、1年生は2年後の自分を思い浮かべてみてください。後輩達に「なぜ自分が進路目標を実現できたのか？」を伝えるとき、あなたは何を語っていますか？

表情が伝えるもの

生徒部長 中村 展久

新型コロナウイルス感染症が収まりつつあり、マスク着用が個人の判断に委ねられるようになりました。これまでの学校生活でも常にマスク着用で、友達とのコミュニケーションもとりづらい環境でした。あるニュースの記事に、日本人と欧米人では、コミュニケーションにおいて、重視するポイントが異なり「日本人は目」で、「欧米人は口」で相手の表情を読み取る傾向にある。その例として、日本と欧米での顔文字の違いがあるようです（異論もあるようですが）。

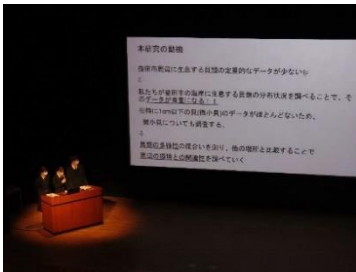
	笑顔	悲しい	飛び切りの笑顔	びっくり
【日本】	(^_^)	(T_T)	(≡▽≡)	(/° 0°)
【欧米】	:-)	:- (:-D	:-0

欧米の顔文字の特徴は、左に横倒しの状態ですが、日本と欧米の顔文字の大きな違いは、「口が動くか、目が動くか」のようです。コロナ禍では、マスク着用で目を中心にした表情から相手の気持ちを読み取らなければならないが、日本人は得意だったのかもしれませんが、やはりマスクが表情を読み取る邪魔になっていたところはあるはずです。すぐにマスクが完全にない生活になるわけではありませんが、相手の表情を気に掛け、お互いの思いを大切にしながら、気持ちの良いコミュニケーションをしていきたいですね。

島根県理数科課題研究発表会 2年理数科課題研究

3月9日（木）に島根県民会館で島根県理数科課題研究発表会が行われ、本校からは化学ゼミ「生分解性プラスチックの分解のしやすさ」と生物ゼミ「益田市の海岸に生息する貝類の種類と傾向」が参加しました。

「生分解性プラスチックの分解のしやすさ」が優秀賞を獲得し、8月に鳥取県で行われる中四国九州地区理数科課題研究発表会にポスターでの参加が決まりました。



退職される方

長岡 正和 先生（校長）

教諭として6年、教頭として3年、校長として2年の合計11年間の母校益田高校の勤務でした。その間、文武両道にひたむきに頑張る生徒諸君と情熱溢れる教職員の皆様、ご支援ご協力いただきました地域の方々との出会いに心より感謝申し上げます、38年間の教員生活の節目となる退職を迎えます。大変お世話になりました。ありがとうございました！

豊田 里奈 先生（保健体育）

母校で勤務した2年間はとても幸せな時間でした。皆さんと笑ったり話したり、時には真剣に語り合った日々を通して、益田高校での新たな思い出が増えたこと、嬉しく思っています。私は益高生が授業中に見せる真剣な表情や、楽しそうな笑顔が大好きです。皆さんがこれからも心と身体共に健康に過ごせるよう、心から願っています。本当にありがとうございました。

原 史子 先生（購買）

4年間購買で益田高校の皆さんと関わらせていただきました。益高生は礼儀正しく、素直な生徒さんが多く、休み時間を楽しそうに過ごす姿に元気をもらっていました。ありがとうございました。これからも応援しています！



岩田 千明 先生（国語）

先日1年生の授業で、視覚障がい者の方が映画を楽しむための音声ガイド作成に挑戦しました。困難にぶつかるなかで自らよく考え、クラスの仲間と対話したり体を動かしたりしながら一生懸命取り組む姿が頼もしかったです。6年前に赴任してから益高生のこの姿は変わりません。だから授業がとても楽しかったです。これからも目の前のことに没頭し、耳のいたいことでも吸収しようとしながら、飛躍してくれることを願っています。

山田 勇太 先生（地歴・公民/日本史）

ついにこの日が来てしまいました。今の気持ちを正直に言いますと、「寂しい」です。皆さんの成長していく姿を近くで見ることができ充実した4年間を過ごさせてもらいました。その分、別れは寂しいですね。しかし、寂しいですが悲しくはありません。次の勤務先でも、新しい出会いがあります。私は、その出会いから成長していきたいと思っています。環境が変わることに不安もあると思いますが、新しいクラスメイトや入学してくる後輩たちなどとの出会いを大切にしてください。「出会いは成長の糧」です。皆さんの成長を平田高校から応援しています。4年間本当にありがとうございました。

福原 理恵 先生（数学）

しっかり食べて、寝て元気に学校にきて勉強、部活、行事を全力で楽しんでください。

西尾 平 先生（数学）

私は益田高校に恩返しすることができたのでしょうか。益田高校には5年前に着任しました。私は当時の生徒たちに救われた経験と気持ちを今でも大切にしています。そして可能な限り私の持っている思考や想いを当時の生徒たちや現益高生にも伝えてきたつもりです。もし誰かに支えられた経験があるのなら、それが当事者でなくても別の場所や時間でも良いので、いつか誰かの支えになってあげてくださいね。益高5年間充実していました。ありがとうございました！

寺岡 智弘 先生（数学）

あつという間の8年間でした。生徒の皆さんが勉強や部活に一生懸命に取り組む姿を見て、応援することしかできませんでした。これからはOBとして、地域のおじさんとして益高生を応援します。

小松 勇斗 先生（数学・情報）

1年間益高生と共に情報と数学の勉強ができて楽しかったです。共に勉強したことが、これから先皆さんの人生のどこかで役に立てば良いなと思います。情報社会で困ったことがあれば、思い出してみてください。

深田 陽子 先生（英語）

益田高校で5年間勤務できたことをとても嬉しく思っています。生徒の皆さんがそれぞれ悩みながらも、精一杯前向きに取り組もうとする姿に、私自身よく勇気づけられてきました。日々の授業も1年生から3年生まで、とても楽しかったです！ありがとうございました。

久保田 なつみ 先生（学校司書）

益田高校での8年間は、授業でも読書でも図書館をよく使っていただいてとても充実した日々を過ごすことができました。「何かおもしろい本ないですか？」と聞かれたり、おすすめした本を読んだ後「この本おもしろかったよー」と報告に来てくれたりするみなさんに、いつも元気をもらっていました。益高を離れるのは少しさみしいですが、これからも益高生の活躍を楽しみにしています。